

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：55502

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25360059

研究課題名(和文) 海事クラスターにおける女性のキャリア形成に関する実証的・実践的研究

研究課題名(英文) Practical Research for Female's Career Development in the Maritime Cluster

研究代表者

石田 依子 (Ishida, Yoriko)

大島商船高等専門学校・その他部局等・教授

研究者番号：40370027

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、海運界における現在のジェンダー形成の状況を国際的に比較分析し、我が国の海運界で男女共同参画を実現させるにはどうするべきかを指摘することである。地域的には欧州・米大陸・アフリカ・オセアニア・中東・アジアというグローバルなレベルで実施した。特に本研究では、代表者が所属しているWISTA Internationalの協力を得て、調査を実施し、船員だけに限らず、船舶管理・金融・保険・物流・教育など、海運に関わるあらゆる業種も含めて、陸上勤務の視点からも調査を実施した。また、WISTA Internanitonalの支部であるWISTA Japanの活動を充実させる活動を実施した。

研究成果の概要(英文)：This study is meant to understand the state of women's participation in leadership roles in the maritime industry and whether international groups such as WISTA, Women's International Shipping & Trading Association, can help advance women's careers in this industry through its networking and business opportunities. Through Hofstede's six dimensions of culture framework and interviews to members, I analyze whether cross-cultural groups such as WISTA have any effect on the cultural conditions of the countries where they have established chapters. After identifying the main concerns from the research, I provide suggestions to improve the standing of WISTA within the maritime industry.

研究分野：ジェンダー研究

キーワード：海事クラスター 海運 船舶 ジェンダー・フリー 男女共同参画 WISTA

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は「船舶におけるジェンダー形成の分析—女性船員の受容と育成に関する国際比較研究」というテーマで、平成 22 年度から平成 24 年度の科学研究費補助金に採択されたが、本研究は先の研究の延長線上に位置するものである。船を航行させているのは船員であるが、海運界全体に目を向けると、それは船員だけで運営されている世界ではないということは明らかである。海運界におけるジェンダー平等を目指すためには、海上だけではなく陸上勤務も含めて分析することが必要不可欠であることを前回の研究を通して実感した。そこで、本研究では、海運界におけるジェンダー形成を世界的な規模で比較分析したい。とりわけ、本研究では、WISTA (Women's International Shipping and Trading Association)の協力が重要となった。この協会は船会社、船舶管理、物流、港湾、造船、保険、金融、教育機関等を含めてあらゆる海事関連の企業で管理職に就く女性によって組織されている。現在では、世界中の約 40 ヶ国以上の国々に支部があり、会員は 1500 人を超えている。1974 年にイギリスで結成されて以来、WISTA は大きな発展を遂げ、現在では海運界全体に大きな影響力を持ち、世界中の海運界で働く女性のためのネットワークをはりめぐらせるに至った。研究代表者は、平成 22 年 10 月にギリシャで開催された世界大会にスピーカーとして招聘され、我が国の女性船員の需要と教育について講演した。さらに平成 24 年には、研究代表者は、WISTA Japan として、日本にも WISTA の支部を設立した。船員だけではなく、海運界の陸上勤務におけるジェンダー形成の分析の必要性を感じたことには、以上のような背景がある。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、海運界における現在のジェンダー形成の状況を国際的に比較分析し、我が国の海運界で男女共同参画を実現させるには何をなすべきかを指摘することである。地域的には欧州・米大陸・アフリカ・オセアニア・中東・アジアというグローバルなレベルで、また業種としては船員に限らず陸上勤務も含めて、船会社はもちろんのこと、船舶管理・金融・保険・物流・教育・法律など、いわゆる「海事クラスター」と呼ばれる幅広い分野における海運業界への女性の進出状況について国際的に比較分析する。最終的には、海運界において女性がリーダーシップをとることの意義について論じ、そのために女性自身と海運業界がどうあるべきか、ということを目指している。

### 3. 研究の方法

(1)まず研究の背景として、女性のビジネスフィールドにおける進出について国や地域

によってどのような概念があるのかということ、「女性と労働」をキーワードとした文献を通して把握した。

(2)WISTA の各国・各地域におけるメンバー数に着目し、それぞれの国と地域において、海運界のどのような業種で女性が就業しているのかということ整理し、女性自身の年齢層や資格なども加えて統計的にデータベース化した。

(3)これらの結果を踏まえて、女性の進出が顕著な国・地域と、そうでないところを明らかにし、その差がなにもゆえに生じているかということ进行分析した。

(4)さらに、その結果を我が国の海運界のジェンダー形成の状況にフィードバックできるように、海運界における男女共同参画を目指すための改善点について指摘した。調査と研究の方法は、主に訪問や電話によるインタビューとアンケートが中心となった。

### 4. 研究成果

まず、2013 年度は、WISTA International の世界大会が開催された米大陸に焦点を絞り、フィールドワークを中心に調査を実施した。WISTA のメンバー数の推移を見ると、1999 年から 2013 年にかけて、メンバー数は 3 倍以上に成長しているが(約 500 人から 1500 人)、これは今まで支部がなかったアジアやアフリカ、中東に新しく支部ができたこと、アメリカ合衆国内におけるメンバー数の増加によるものであるということがわかった。特に米大陸では、1999 年にはメンバー数は 121 人だったが、2013 年には 372 人まで成長している。ただし、数が増えたからといって、必ずしも海事世界全体に男女共同参画が進んでいるわけではないということも判明した。つまり、アメリカに関していえば、そのほとんどが海事専門の弁護士をはじめとする陸上勤務に就く女性が増加しているということであって、船員はほとんど増えていなかったからである。

2014 年度は、WISTA の中核をなしている欧州に焦点を絞り、調査を実施した。特に、メンバー数の増加が著しいドイツに注目し、当該国のジェンダー・メインストリームの取り組みと照らし合わせつつ、WISTA Germany の調査を行なった。1990 年代以降、ドイツでは、政治の分野では女性議員の増加が顕著になり、2005 年にはアンゲラ・メルケルが史上初の女性首相として選出されたことをきっかけとして、男女共同参画が促進したと指摘されている。この傾向と一致するかのよう、WISTA Germany においても、2005 年からメンバー数が上昇している。また、この年度の欧州におけるジェンダー意識の調査から、そもそも「ジェンダー・メインストリーム」という概念は欧州の民主主義の考え方から発生したものであるということがわかった。欧州では、教育や政治、経済において様々な差異を存在することがかなり早い時期から認

識されていた。男女間においても、当然のことながら差異はある。つまり、男女や民族等の間に存在する差異を「ダイバーシティ」として逆手に取り、多様性がもたらす有効性を追跡することで、男女間における「ジェンダー・メインストリーム」を目指そうというチャレンジ性が、WISTA Germany にも反映されていた。

2015年度は、中東とアジアを中心の調査を実施した。当該年度の調査において、最も注目された点は、宗教的な背景からジェンダー平等が遅れをとっていると思われる中東に関して調査を実施したことであった。WISTA International には中東の支部も存在する。WISTA Egypt はすでに存在しているが、2010年にはアラブ首長国連邦の支部が新たに設立されている。直近の5年間で、当該国のメンバー増加は著しい。周知のように、中東は治安の問題から接近し難い地域であるので、主にメールによる調査であったが、本研究における WISTA UAE のメンバーから協力が得られたことは貴重であった。また、アジアに関しては、我が国に焦点を絞り、積極的に女性を雇用している企業を訪問して聞き取り調査を実施した。

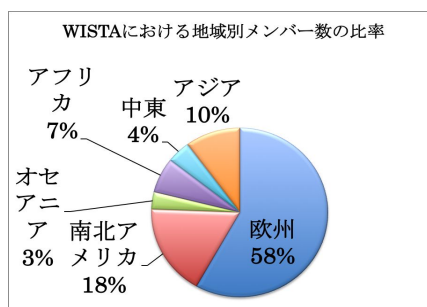
これらの調査から、次の点が明らかになった：中東はもちろんアジアも、欧州に比較すると、海運界における男女共同参画はかなり遅れをとっている。中東では、女性が船員になることは許されていない。我が国においては、特に大企業では、女性が船員になることに関しては否定的な見解を持つ企業はほとんどないが、海運＝男性という規範化された概念による影響がかなり大きいことがわかった。この影響は、企業の体力が小さければ小さいほど大きいということも判明した。

最終年度は、それまでの調査を総合的に分析すると同時に、WISTA Japan の活動を活発化させることに留意した。調査により、以下のことが明らかとなった。世界に眼を向けた場合、19世紀から女性船員は存在してきた。20世紀初めにおいては、女性船員が比較的多く存在した時代もあった。海上、陸上に限らず、海運業界では、外航に比べて、内航海運では女性の雇用に対して消極的である。これは、欧米諸国よりも、我が国をはじめとするアジアにおいて顕著であった。女性船員に関していえば、その数の少なさにもかかわらず、女性が船員になることに対しては必ずしも事業者は否定的ではない。これは、欧米・アジア（特に日本やシンガポール）においては同じ傾向が見られた。グローバルなレベルで言えることは、特に各国内航において女性が少ないのは、とりわけ、女性の船員が少ないのは、企業の体力の問題であり、余裕をもった雇用や女性のための船内設備の整備が実現できないことが、女性船員の少なさに大きく影響している。特に我が国において顕著であったのは、海運界において女性が雇用されにくいのは、必ずしも企業側の偏

見だけではなく、女性側のプロ意識の低さも大きく影響している。

海運界の就労状況は、陸上勤務であっても男性が圧倒的に多いことは事実であるが、これが、船員職となればさらに拍車がかかる。そもそも、海運業界が男社会として発展してきたという背景には、船員の労働環境・仕事内容が女性よりも男性に適していたことが考えられる。ある集団が存在すれば、その集団は多数派に合う傾向を示すことが一般的であり、その傾向は多数派が多ければ多いほど顕著に表れる。船員社会は、大多数が男性であるため、形成されている環境は男性に適したものとなるのだ。現在も船員という職業は男性に適したものとなっていることは間違いない。その世界に飛び込もうとする、すなわち女性が船員になろうとするのであれば、それ相当の覚悟が必要になり、また、すでに形成されているその社会に可能な限り対応すると同時に、企業側に関して言えば、長い道程となったとしても、両性が共存できる環境を構築することが重要であるということが指摘できる。

また、女性に対する先入観が女性の海運業界でのさらなる発展の妨げとなっている場合があることもわかった。実際に共に同じ現場で働かないとわからない部分もあるが、一部の企業だけでなく業界全体が女性船員を受入れる体制をとることが重要であると考えられる。また、各企業の状況に合った採用を行う必要があることも指摘できる。特に船員の場合は、実際に女性を採用しようとした場合、船内の改装、退職、産休・育休、仕事内容・労働環境が合わないなどのリスクが存在することは事実である。自社に合った採用を行い、事業者、女性船員が不利益を被らないような工夫も必要であろう。



## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

1. 石田依子「古代に生きた会場の女性戦士たち」(日本船長協会『キャプテン』第414号、2013年4月、pp.87-90)(査読有)
2. 石田依子「海賊船におけるジェンダー政治学」(女性史総合研究会『女性史学』第23号、2013年7月、pp.31-42)(査読有)
3. Yoriko Ishida. “State of Women in the

Maritime Industry.”( WISTA annual report. No.10. 2014 年 10 月、pp.1-30 )( 査読無 )  
4. Yoriko Ishida. “A Research on the Gender Equality in the Maritime Cluster.” WISTA annual report. No.11. 2015 年 10 月、pp.18-39 )( 査読無 )  
5. Yoriko Ishida. “What is Gender Equality?” (大島商船高等専門学校『紀要』第 49 号、2016 年 12 月、pp.39-47) ( 査読無 )  
6. Yoriko Ishida. “State of Women in the Maritime Cluster: The Effect of Women Organization in Breaking Glass Ceiling.” ( WISTA Journal. No.11. 2014 年 12 月、pp.1-30 )( 査読有 )

〔学会発表〕( 計 4 件 )

1. Yoriko Ishida. “Gender Politics in the Classroom: Considering Female Education in National Colleges of Technology in Japan.” (The 12<sup>th</sup> Hawaii International Conference on Education, 2014 年 1 月 5 日、Honolulu, Hawaii, USA.)  
2. Yoriko Ishida. “Racing Women: Historical Study of Women’s Involvement into the Motorsports Comparison with the Maritime World.” (The 13<sup>rd</sup> Hawaii International Conference on Arts and Humanities, 2015 年 1 月 12 日、Honolulu, Hawaii, USA.)  
3. Yoriko Ishida. “The Condition of Women Seafarers in Japan: From Viewpoint of the International and Domestic Shipping Industry.” (The 14<sup>th</sup> Hawaii International Conference on Arts and Humanities, 2015 年 1 月 9 日、Honolulu, Hawaii, USA.)  
4. Yoriko Ishida. “Women’s State in the Maritime Industry: The Effect of Women Organization in Breaking Glass Ceiling.” (The 15<sup>th</sup> Hawaii International Conference on Arts and Humanities, 2015 年 1 月 10 日、Honolulu, Hawaii, USA.)

〔図書〕( 計 1 件 )

1. 石田依子『海運業界における男女共同参画推進のための研究』(北九州市立男女共同参画センター・ムーブ・ジェンダー問題調査・研究報告書、2016 年 3 月、全 48 頁。)

〔産業財産権〕

出願状況 ( 計 0 件 )

取得状況 ( 計 0 件 )

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石田 依子 ( ISHIDA, Yoriko )

大島商船高等専門学校・その他部局等・教授  
研究者番号 : 40370027

(2) 研究分担者  
なし

(3) 連携研究者  
なし

(4) 研究協力者  
なし